

## 2025年度 第5回9月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2025年9月10日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室  
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名  
返信総数2名  
出席総数7名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	委員	竹内明子
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	井出智子
	委員	北條俊明
	委員	白石智子
	委員	桐生典夫

#### 4. 議 題

- (1) 戦後80年終戦の日「戦後80年、隆さまと戦争を考える」と題した特別プログラム

放送日 2025.8.15 金曜日 午後ワイド13:00~18:20 隆さま劇場内

- (2) その他

12月1日よりAM放送休止について  
秋の番組改編について  
番組審議委員新任について

## 5. 議事内容

- (1) 戦後 80 年終戦の日「戦後 80 年、隆さまと戦争を考える」について  
番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

### 議題説明

2025 年 8 月 15 日は戦後 80 年の終戦の日。今年の 8 月 15 日は金曜日。栃木放送では金曜午後阿久津隆一アナウンサーの「隆さま劇場」を放送しています。そこでこの日は、「戦後 80 年、隆さまと戦争を考える」と題した特別プログラムを企画しました。

### 【企画内容】

「戦争を語り継ぐ」が企画の根幹ですが、戦争経験者の高齢化が「戦後 80 年」を検証するにあたって非常に困難となりました。

そこで、今回は「肉親が語る戦争」をテーマの軸に据えています。

そのほか、番組では「反戦歌」をかけながら、リスナーからの戦争にまつわるお便りを紹介して番組を進行します。

### 各委員からは

- ダイジェスト版を拝聴したためか全体的にまとまりに欠け、内容もややマイルドに抑えられている印象を受けました。大野幹夫さんのインタビューでは宇都宮大空襲当時の生々しい実態をもっと聞きたかったですし、川島プロデューサーの祖父の話は切迫感に乏しく「戦争を考える」という題にそぐわないと感じました。一方で阿久津隆一アナウンサーのお父様の手記朗読は戦地の過酷さが伝わり非常に印象的でした。戦争体験者が減る中で平和の尊さを伝える番組は重要性を増しており、今後もぜひ継続をお願いしたいと思います。
- 番組冒頭の「お付き合いできるところだけ」という語り掛けがとても優しく受容的で好印象でした。重いテーマながら軽快な音楽や導入で聴きやすく、ラジオならではの「反戦歌」の力が際立っていたと思います。私自身の祖父の戦争体験を思い起こし、語り継ぎ方の多様さや時代の背景を改めて考えさせられました。番組を通じて、戦争を知る方から聞いた話を思い出し、思いを馳せる機会となることに大きな意義を感じました。
- 今回初めて番組を聴き、阿久津アナウンサーの柔らかい語り口が他の戦争番組にはない落ち着きを与えていて印象的でした。一方で「戦争の親玉」などの曲からは強い反戦の意思も伝わり、バランスが良かったと思います。大野さんの「もう疲れ切った」という率直な言葉や、川島プロデューサーのお祖父様の貴重な録音を活かしたお話は大変興味深く、

眠っている資料を今後も発掘してほしいと感じました。ただ、朗読部分が長く説明不足で途中混乱する場面もあり、もう少しわかりやすさを補う工夫が必要だと思いました。また「零戦」と「ハヤテ」の混同のような事実関係の誤りには引っかかりを覚えました。全体としては大変素晴らしく、今後も事実確認の正確さや構成面を工夫することで、さらに伝わる番組になると感じました。

○私は、戦後 80 年を区切りに戦争を取り上げた今回の番組は意義深かったと感じた。宇都宮空襲を語る大野さんや川島プロデューサー、阿久津アナのお祖父・父の体験からは深い心の傷と消えない闇が伝わり、ラジオだからこそその重みがより鮮明だった。大野さんが「次につないでほしい」と語ったように、戦争は命の問題として継承すべきで、40 代を含む若い世代がどう受け止めたかを番組に反映させる工夫が今後必要だと感じた。歌詞が際立つ楽曲の使い方は有効だが、阿久津アナの向き合い方をさらに深めた進捗と、事実確認や構成面の工夫も望む。

○私は、この番組のアナウンサーが戦争番組には合わず、悲壮感や切迫感が伝わってこない点でミスキャストだと思った。曲についても、冒頭の楽曲は世代的に分からない人も多いので、誰のどういう曲か説明が欲しかった。ただ「さとうきび畑」の歌は最後の「ざわわ」が印象的でとても良かった。玉音放送は雑音でほとんど聞き取れなかったという話に共感し、当時の実感がよく伝わった。中島飛行場から富士重工への流れを実際に見てきた身としても印象深かった。全体として、戦争反対だけでなく「国をどう守るか」という視点も加えた番組があればより意義深いと感じた。

○私は「戦後 80 年で戦争を考える」という重みのある番組を聴いて、とても考えさせられる内容だったと感じました。終戦記念日当日に放送されたことにも大きな意味がありまし、大野さんの体験談は 93 歳とは思えないほどしっかりとした語り口で、とても印象に残りました。阿久津アナウンサーがお父様の手記を読み語った場面も、想像しながら聞き入ることができました。戦争を知らない世代がどう伝えていくかを改めて考えさせられましたし、音楽も歌詞に込められた平和への願いが伝わってきました。特に「さとうきび畑」は癖のない歌声で久々に聴けて、とても良かった。総じて、エンターテインメントではなく学びや気づきの多い良い番組だったと思います。

○私は戦後 80 年という節目の年にこの企画を行ったことは非常に意義があると思いました。語れる方が確実に減っていく中で、節目に語り継ぐことは大切だと感じました。番組については、まとまりに欠けるという意見もありましたが、むしろ長時間ワイド番組中の区切りごとに戦争の話題が入ることで、長時間聴いても飽きにくく、どこから聴いても内容に触れられる点が良かったと思います。ラジオは声だけの媒体であるため、映像に頼るテレビとは違い、栃木弁で語られることで親しみや臨場感が生まれ、一期一会の生放送らしさ

も感じられました。ただ一方で、大野さんへのインタビューは肝心な部分を引き出せず、深みに欠けていた点が残念に思いました。

○私は、8月15日の終戦の日にこの番組を聴き、3人の出演者から生々しいお話を伺えたことに大きな意義を感じた。記録として残し後世に伝える点でも有効であったと思う。私自身の祖父も満州に行ったが戦争の話は一切せず、出演者の方々も抑えて語られていたのかもしれないが、もう少し踏み込んだお話も聞きたかった。加えて、現在のウクライナやガザの紛争に日常的に触れる中で慣れてしまう怖さや、自国第一主義の広がりによる対立の懸念も感じており、この番組を通じて改めて平和を考える必要性を実感した。

○私は戦争を直接知りませんし、祖父も体験を語らぬまま他界したので、このようにラジオで話を聞ける機会はとても貴重だと感じました。特に大野さんが宮島町といった具体的な地名を出して語られたことで、今の風景と重ね合わせて実感が湧き、地元局ならではの番組だと強く思いました。阿久津アナウンサーの柔らかい語り口もあって、重いテーマながら和やかに聴けた一方、大野さんへの質問の意図が少し分かりにくく、事前整理が必要ではないかと感じました。テレビと違い、声だけで想像し考えるラジオの特性が活かされ、戦争を知らない世代にも平和を考えるきっかけになる良い番組だったと思います。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

## (2) その他

12月1日よりAM放送休止について

秋の番組改編について

番組審議委員新任について

## 6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

## 7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2025年9月21日）
- ② 当社のホームページに掲載（2025年9月22日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2025年9月22日～）

以上